

令和8年度 学力向上推進計画

南城市立玉城小学校

1 目標

授業改善と学習基盤の確立により、児童一人一人に学び・育ちの実感を味わわせ、自己肯定感を高めるとともに、国及び県の学力調査において、国語・算数で県平均・全国平均の正答率を目指す。

2 推進目標

- (1) 全国学力・学習状況調査、県到達度調査、学びのたしかめにおいて、全国平均正答率を超えることを目指す。
- (2) 自己肯定感のアンケートやQ-Uアンケートで全国平均を目指す。
- (3) 全国学力・学習状況調査及び県学力到達度調査、県版「児童質問紙」、学びのたしかめにおいて、平均と比較で落ち込みのある項目の改善を図る。

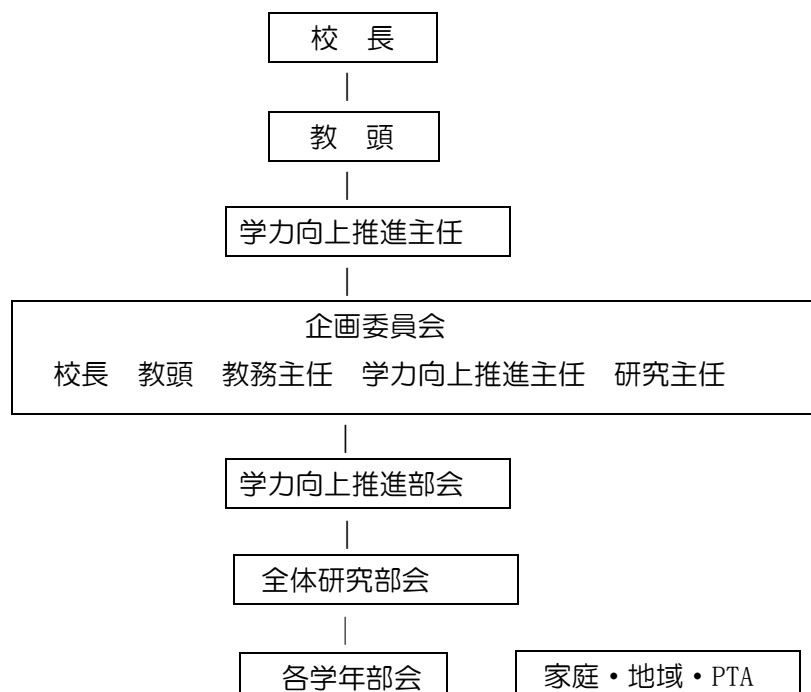
3 取組の重点

沖縄県学力向上施策「自立した学習者」育成プロジェクト（令和7～9年度）に基づく授業改善・学校改善の推進

- (1) 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実
- (2) 「学習基盤としてのICT」の活用
- (3) 「指導と評価の一体化」の実現
- (4) 「自学自習力」を育む取組の充実

4 推進体制

(1) 組織



(2) 各種委員会・部会等の取組

①企画委員会

- ・校長、教頭、学推（正・副）主任で組織する。
- ・学力向上と校内研推進の企画、立案する。
- ・取組の結果を分析、考察し、成果や課題等を整理し、取組のまとめをする。
- ・各学年の指導の効果をまとめ「学年のたすき」として、次学年に引き継ぎ、継続した取組が展開できるようにする。

②学力向上推進部会 学推主任 学推副主任 研究主任

- ・校長、教頭、教務、研究主任、学年主任で組織する。
- ・実践のマネジメントサイクルに基づく取組を推進する。
- ・企画委員会で企画、立案した内容を検討する。
- ・学力向上推進の運営、調整を行う。

③学推全体会

- ・全職員で学力向上の取組について共通理解する。

④学年部会

- ・各学年単位での学力向上における日常的な取組を実践する。
- ・各教科の年間指導計画を活用し、基礎・基本の定着を目指す。
- ・取組の重点を踏まえ、学年・学級経営を行う。

⑤家庭・地域・PTA

- ・家庭学習の習慣化を図る。
- ・読書活動の推進を連携して行う。
- ・校外指導活動で児童の安全を見守る。
- ・児童の安全確保のために、登下校時の児童を見守る。

5 具体的な取組内容

(1) 自己肯定感を高める取り組み

① 児童一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する(誉める)取り組みで自己肯定感アップ

- ・教師ができていない箇所を指摘⇒教師が良さを見つけ誉めて伸ばす
- ・教師ができていない児童を指摘⇒教師ができていない児童を賞賛
- ・児童同士が注意し合う⇒児童同士が認め合う
- ・自分の短所、改善点を見つめ改善する⇒自分の長所、自慢できることに気づきの伸ばす
- ・途中であきらめた、やらなかった、できなかった経験⇒最後までやり遂げた、頑張った達成経験

② 人間関係の形成と居場所づくりで自己肯定感と自己有用感のアップ

- ・ペア学習グループ学習等で互いに学び合い認め合い、人間関係の形成と自己肯定感を高める。
- ・掃除当番、給食当番、係り活動、お手伝いを通してみんなのために役立つ、感謝される、褒められる経験を通して自己有用感と自己肯定感を高める。

③ Q-U アンケートの結果共有

6～7月と10月に実施するQ-Uアンケートの結果をもとに気になる児童の把握と全職員による情報共有で自己肯定感を高める手立て支援を講じる。

(2) 学び・育ちの実感の取り組み

① 教室環境を整える(刺激への配慮)

- ・集中し落ち着いて学習に取り組める環境を整えるために、教室の刺激の量を減らす配慮を行う。
- ・黒板及びその周辺の掲示物を必要最小限にする。

統一事項 ○黒板上部：何も貼らない

○黒板「日付、めあて、日直」のみ *その他のものは黒板に貼らない

②「玉小ルール」で学習規律の徹底

- ・全学級に掲示し、児童に学習規律を徹底させ、どの授業でも学習を支える基盤作りをする。
- ・4月の1ヶ月で徹底を図り、日々の学校生活でも常に意識して取り組ませる。

③諸学力調査問題の課題点の重点指導

- ・全国学力学習状況調査、学びのたしかめ、県到達度調査問題で課題のあった指導項目を年度始めに確認し授業の中で重点的に指導したり、掘り下げて指導したりして定着を図る。

④ 漢字力の定着及びテストの実施

- ・漢字力テスト・・・学期末漢字テストを活用し、85点以上を目指す。(間違えた問題は追試)
- *1回目は解答は配らず実施、2回目から配布

⑤ 計算力の定着及びテストの実施

- ・計算力テスト・・・学期末まとめのテストを活用し、85点以上を目指す。(間違えた問題は追試)
- *表(おもて)のみ集計に入れる。

⑥ 生活リズムアンケートの実施

- ・生活リズム習慣「朝ご飯を食べた、テレビの視聴時間、就寝時刻、家庭での読書時間、家庭学習の時間(学年×10+10)」について家庭と連携して1週間、アンケートを取り、児童の生活実態を把握して指導に生かす。 1学期(5/7~5/11) *担任回収

6 実践のマネジメントサイクル

	月	本校の実践	
計画	4月	○学力定着・学習規律強化月間の実施 ○「玉小ルール」の確認 *学推朝会 ○「学力向上対策推進計画」の共通理解 ○年度始めの支持的風土をつくる学級経営を中核とした取組 ○各学期、計算力テスト・漢字力テストの取り組み確認。 ○全国学力・学習状況調査に向けた6年の補習の取組 ○全国学力・学習状況調査実施(WEB入力)	
	実践	5月	○生活リズム実態調査 5月実施 回収担任
		6月	○「県学びのたしかめ」実施(WEB入力) ○ハイパーQ-Uアンケート(1回目)が7月上旬
		7月	○1学期漢字力テスト ○1学期計算力テスト ○全国学力・学習状況調査の結果届く(7月末)
改善	8月	○全学力学習状況調査分析(学推主任・副)	
	実践	9月	○「玉小ルール」の確認 *学推朝会2回目 ○県学力向上月間の取組の共通確認
10月		○ Q-Uアンケート実施(2回目)	

評価	11月	○「県学びのたしかめ」の実施（WEB入力）
	12月	○2学期漢字カテスト ○2学期計算カテスト
改善計画	1月	○地区学力向上推進報告書の作成（データのみ） ○学力向上推進報告会（校内研報告）
	2月	○玉小ルールアンケート 3回目 ○県学力到達度調査対象：R7年なし(例年5・6年国・算) ○3学期漢字カテスト ○3学期計算カテスト
	3月	○全国学力学習状況調査に向けての取組（5年） ○次年度計画策定